

京都たんたんだより

1月号
発行日 2011.1.1

NPO法人 京都丹波・丹後ネットワーク

ハイライト:

- イベント: “お米の交流会予告”
- セミナー: 情報発信講座 “ツイッター・ブログ編”
- 地方の動物園はどうあるべきか「ウリ坊とみわ」から学んだこと
- 自治会という組織と今後の在り方第一弾「毛原」



初日の出 (雪舞う中に…)

イベント情報

◇ 交流会のお知らせ予告 (三和荘) 2011年2月5日 (土)

志賀郷で安心・安全・こだわりの米作りをされている、有機栽培の師匠ともいえるべき井上吉夫様に「農家が自立するということ～こだわりのお米を作り直売する～」についてお話を伺い、そのあとは京都丹波でこだわりのお米作りをされている皆様にご提供いただいたお米の食べ比べ・交流会を企画しています。

ご自身が作られたお米やいつも食べなれているお米とぜひ食べ比べてみてください。

また、三和荘さまでお作りいただいた「お汁」もご用意しております。

来月号では詳細をお知らせすることが出来ると思いますので、楽しみにお待ちください。

なお、自分の作る米が一番だと思われる農家の皆様、米作りに試行錯誤されている皆様、そして安心・安全でおいしいお米をとってお考えの消費者の皆様、是非ご参加ください。

セミナー情報 詳細は別添のご案内・申込書を見て下さいね!

1月27日 (木) 情報発信講座: 事業に使えるツイッター・ブログ編
(情報化時代のビジネスコミュニケーションスタイル)

10:00~16:00 (舞鶴商工観光センターOA研修室)

講師: 渡辺 康一様 (ウェブマックス株式会社 代表取締役社長)

◇ 渡辺さまはウェブプロデューサーをされており、歴史マーケッターでもあります。

◇ ツイッターをHPやブログに連動させて情報発信する方法などを、実際にPC等を使用しながら学んでいきます。

京都北部ではまだまだあまり行われていない講座なので、新しい発見があると思います。ぜひ参加してみてください。

(ツイッターはやったことがない、知らないという年代の方も歓迎です。)

目次

イベント情報	1
セミナー情報	1
ツイッター・ブログ編	
地方の動物園はどうあるべきか「ウリ坊とみわ」から学んだこと	2
自治会という組織と今後の在り方 第一弾	3
(過疎地再生に取り組む自治会)	
京都丹波・丹後ネットワークよりお知らせ	4
とっておきご紹介	4

肉じゃが発祥の地論争

舞鶴市が一九九五年一月に「肉じゃが発祥の地」を宣言。一九九八年三月には呉市も「肉じゃが発祥の地?」として名乗りを上げた。

根拠は、「舞鶴市・東郷平八郎が初めて司令官として赴任したのが舞鶴鎮守府であり、現存する最古の肉じゃがのレシピが舞鶴鎮守府所属艦艇で炊烹員をしていた故人から舞鶴総監部に寄贈されたもの」とし、

「呉市・舞鶴赴任より一〇年前に呉鎮守府の参謀長として赴任している」として、今もホットな論争が繰り広げられている。

地方の動物園はどうあるべきか

「ウリ坊とみわ」から学んだこと

「ウリ坊とみわ」は、ともに2010年5月頃に生まれた孤児であり、それぞれ6月に福知山市動物園に保護され、毎晩泣き止まないみわを見かねて、園長が8月にウリ坊と同じケージに入れたところ、最初は嫌がっていたウリ坊も次第にあきらめ？片時も離れないほどの仲になったという。そして、みわがウリ坊の背中に乗って園内を走り回る姿が日本中に知れ渡り、同園への来園が10倍にもなるほどの経済効果をもたらした。（といっても、「ウリ坊とみわ」がご褒美をいただけたかどうかは不明であるが…）

そんな「ウリ坊とみわ」であるが、翌年（H23）の1月頃にはウリ坊が大きくなり、このような姿も見られなくなるそうである。

「ウリ坊とみわ」のカップルが解散した後、福知山市動物園をずっと愛し続けてくれている人たちにとって、この園はどうなっていくのがよいのであろうか？

もともと三段池は福知山藩主松平忠房により作られた灌漑用の池を整備したもので、春には桜、秋には紅葉が池の周りを彩り、夜には福知山の夜景を見渡せる絶好の場所に位置し、動物園のほか散策路、スポーツ施設や科学館、植物園などもあり、福知山市民の誇れる公園の一つである。

また、福知山市動物園は北近畿で唯一の動物園であり、16年ほど前に就任された現園長が、直接動物とふれあうことをモットーに、まずは人になれやすいテナガザルとのふれあいから始まり、様々な動物とのふれあいを始められたことが実を結び、今ではウリ坊とみわ以外にもたくさんのスターが活躍している。

私は最初「ウリ坊とみわ」の第二弾を作り、これを機会に京阪神からの集客を考えるべきでは…と思っていた。しかし園長のお話をお聞きして、私の考えが間違っていると気づかされた。

まず、「ウリ坊とみわ」は偶然起こった出来事に過ぎず、自然体だからこそ大勢の人を感動させることが出来たのだということ。

また、地方の小さな動物園には都会の動物園とは違う手作りの良さ（誠心誠意であったり人海戦術であったり）があり、何よりも園長が大事にされてきた「動物とのふれあい」があるのだから、それを初心に立ち返って何時までも続けていくことで、来園者は少しずつでも増えていくのだということ。（園長のお話から）

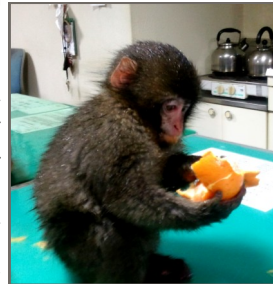


園長にお話を伺う

この動物園にはスターがいる。しかしそれはいつも自然体の、それぞれの特性を持った動物たちであり、そんな動物たちを懸命に世話する園内の人たちや、（ちょっとしたいたずらも）暖かく見守る来園者たちがこの動物園を素敵な場所にはしていないだろうか？ 福知山市動物園がいつまでも市民やこの動物園を愛してくれる人たちの憩いの場であり続けられるよう、願わずにはいられない。



キャベツをもらい
ごきげんの
「ウリ坊とみわ」



いたずら好きのみわ
ちゃん。でも、一人に
なると今でも泣いちゃ
います（事務所にて）

ITワンポイント講座

光回線ってどれくらい速いの
一般的な光回線のスピードは100Mbpsです。これは1秒間に100メガビットのデータを伝送できる事になるのですが、解りにくいですよ。

200万画素のデジタルカメラで撮影すると1枚が約2MBぐらいですので、1秒間で6枚を伝送することが出来るスピードだと言ったら解りやすいかな。

動物うらばなし

テナガザルと仲良くできる人って？

実はニホンザルと違い、テナガザルはヒトに近く、16歳以上の男性や女性でもある年齢？？以上の人にはなつきません。それは本能的に自分に利益をくれる人（つまりお乳を飲ませてくれる人）を知っているからです。

たとえば、男性が（人の）赤ちゃんを抱いてテナガザルのところへ行くと、テナガザルは赤ちゃんを守ろうとして男性に攻撃を加えることがあります。

では、園長は男性ですが、なついてくれているのでしょうか？ 実は園長の手は傷だらけ…。さすがの園長も動物たちにはかなわないようです。（園長のお話から）



シロテナガザルの山ちゃん
当動物園のスターは僕達だよ！

自治会という組織と今後の在り方 第一弾（過疎地再生に取り組む自治会）

地域を活性化するにおいて、住民で組織する自治会（町内会等）の存在を無視することはできません。住民自治のために自治会に求められる役割は様々ですが、府内では「地域親睦・住民交流」、「施設管理」、「行政協力」の役割を担っているものの割合が共通して高く、このほか「体育・スポーツ」と「環境美化」の役割を担うものも多少あるようですが、今後は「地域独自の計画策定」や「地域活性化」等を考える自治会も多くなっていくのではないのでしょうか。

しかし一方では住民の高齢化により、自治会の存続が危うくなっているところも年々増えているのが実情です。そんな中、自治会が中心となり、荒廃していく農地とそこに暮らす人々を守るため活動しているところをご紹介します。

【福知山市毛原の取り組み】

毛原地区には、日本の棚田100選に選ばれた美しい棚田がありますが、高齢化が進む中、棚田の管理を住民の手で続けるのは困難な状況でした。しかしなんとか後世に遺してゆきたいという思いから、福知山市に勤務されている櫻井さんがリーダーとなり、平成9年ころから、田植え、稲刈と交流会を実施する「棚田農業体験ツアー」や、地区の荒廃・遊休農地の活用方法として、本格的に農業を希望する人を対象に、地元とオーナーの共同作業により就農体験を実施する「棚田オーナー制度」を行っておられます。ツアーに参加された方のうち何名かが「棚田オーナー制度」を利用され、今では10組の方々が京都や大阪などから参加されています。田植えから稲刈りまで、草刈りを含めると20回ほどの作業がありますが、収穫できる米はすべてオーナーのものとなり、地元の皆さんからは農機具と知恵（指導）を貸していただきます。また、民間会社2社と協定書を締結し、森林等の整備を「モデルフォレスト事業」として里地里山の保全を行っておられます。

数年前にはブルーベリーを摘み取る観光農園もオープンしました。オーナーは滋賀県栗東市から移住してきた川瀬保さん、節子さんご夫婦。実は毛原での棚田農業体験ツアーに参加されたのがきっかけでした。集落入り口の不耕作地約30aを借り、土作りから行い、手間ひまかけて木を育て…。多くの人たちに自然を満喫しながら摘み取りをしてほしい、そしてそれが地域の活性化にもつながればと。観光農園は「棚田の里ブルーベリーガーデン」と命名。150グラムが入るパックに摘み取ってもらい、農園前に造られたログハウスのカフェでお茶も楽しめる体験ツアーだそうです。残念ながら12月からは冬眠中(?)で、今回お会いすることはできなかったのですが…。

【今後の課題】

このように、棚田を守るため、地域の灯りをともし続けるため、自治会が中心となって頑張ってきた毛原地区ですが、高齢化は容赦なく進んでゆき、来年以降の「棚田農業体験ツアー」の実施が危ぶまれる状況なのだそうです。

ここ中丹の地域では、このように“先祖代々続いてきた田畑や山林、そして人と人とのつながりが、獣害や高齢化などによって危機にさらされている”という声をたくさん耳にします。

そのような里山を守ろうという努力があちこちで行われている一方、やはり力尽きて消え去ろうとしているところが多いのもまた事実です。それは決して他所の問題ではなく、必ず自分たちにも影響が及んできます。

では、私たちにいったい何ができるのか、京都丹波の地に暮らす一人として、NPOとして、本気で考えてみたい。そしてみなさんにも考えてほしい。

まずはこのような実情を、伝え知ってもらうこともまたその一歩だと信じ…。そしてこの記事が少しでもみなさんご自身のふるさとを真剣に考えていただくきっかけになれば幸いです。



毛原の棚田（田植えのころ）



ブルーベリーガーデン（休眠中）

NPO法人 京都丹波・丹後ネットワーク

NPO法人 京都丹波・丹後ネットワークからひと言。

私たちはNPO法人だからこそ出来る新たなネットワーク作りを京都府の協力を得ながら実現していきたいと思っています。

北部ではなかなか情報が得にくい助成金のご案内や申請のための相談会なども実施しますので、ぜひご利用ください。

なお、助成金申請の相談会やIT講座（HP・ブログの作成・更新など）は何人かが集まれば実施致しますので、お気軽にご相談ください。（出張相談もOK、料金は無料です）

〒620-0052

福知山市昭和町7番地

電話・FAX 0773-45-3507

Email: tantan@kyoto-tantan.net

ホームページもご覧ください

記事以外にも様々な情報を掲載しています。

<http://www.kyoto-tantan.net/>

皆さんの力を結集して、京都丹波・丹後のよさを全国に発信しませんか？

編集後記 今回からは、自治会という組織を取り上げていきます。まずは、シリーズの第一弾として、高齢化が進む中で、棚田を守ろうとする福知山・毛原の活動と今後の課題などを取材させていただきました。

京都ちゅうたん元気だよりでは、NPO等団体様のご紹介、素敵なお店、素敵な風景などを募集しておりますので、当NPOまで是非ご連絡ください。

お詫び 今回のちゅうたん元気だよりですが、行政とNPOとの役割の違いなどから情報発信したい事柄についてパートナーシップセンター様と少し隔たりが出てまいりました。私どもはNPOとして地域の課題や実情をより多く発信・発信し、私たち自身の考え方や方向性も主張していきたいと考え、今後については単独で発行させていただくことにさせていただきました。このような事情により情報誌の名前も「京都ちゅうたん元気だより」から「京都たんたんだより」に変更になりますとともに、送付先もNPO法人様のみとさせていただくこととなります。ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

今年度の発行は今回を含めあと3回となりましたが、私たちはここ京都丹波・丹後の地が永久に輝いていられるよう、実情や課題を発信していきたいと思っています。今後ともご協力・応援よろしくお願いいたします。

京都丹波・丹後 とっておきのご紹介

素敵なお店と出会う場所

今回は福知山市から、和の味と雰囲気をも十分に味わえる、とっておきのお店をご紹介します。

四季料理 きた村 （NTT福知山西別館近く）

住宅街の中にひっそりと建つ、カウンター数席と小上がり一部屋の小さなお店ですが、店内はなんとも品格のある佇まい。まるで京都の先斗町の一角の、小料理屋のよう…。イケメンの店主が調理を、かわいらしい奥さまが接客をされています。

今回は手始めに1,050円のお昼のおまかせコースをお願いしてみました。菜の花の胡麻和えと肝の煮つけから始まり、新鮮なお造りと天ぷら、みそ汁、香の物です。



そして最後にお茶と羊羹をいただきました。

大満足です。（ちなみにご飯のおかわりは自由みたい）

夜には3,000円程度でお食事をいただくこともできるようですし、忘年会・新年会には筆者もぜひ利用してみたいです。

福知山のこんなところにこんなお店があったなんて、ちょっと驚きでした。素敵なお店とお忍びで？？または、女性同士で気品ある雰囲気を味わってみるのもいいかもしれませんよ！！